

地産地消網を試験運用

中田商事 ヒット商品探る



初めて導入した冷凍トラック

「たべねっと」売上高100倍めざす

【三重】中田商事(中田純一社長、三重県伊賀市)は12月13日から1月5日まで、伊賀市内で地産地消ネットワーク「たべねっとみえ」の試験運用を実施している。(星野誠)

「たべねっと」は、大王規模生産者の農産物や海産物(天白拓治社長、明和物を集荷し、人口の多い地域)が行う取り組みで、小域のスーパーなどで販売す

るもの。中田商事が伊賀・名張エリアを担当することになり、12月13日、入浴施設の「大山田温泉さるびの」(伊賀市)に開設した店舗

で試験運用をスタートさせた。

初めて導入した冷凍トラックは、デジタルタコグラフとドライブレコーダーを装着済みで、更に軽ワゴン車も用意した。地元産のぶどうジュース、焼き菓子、

いなり寿司などを集め、温泉を訪れた入浴客などに販売している。

開始から2日間の売り上げは2万1千円で、中田商事の手数料は10%の2100円にとどまった。中田社長は「まだ試験運用にすぎ

ない。売れ筋商品の発掘と開発を行い、売り方も随時改善を加えていく。地域住民をトータルに手助けする『ソーシャルサービス』への展開を目指しており、売上高を100倍にしてみせると意気込む。